

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------------------|---|-------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援センター倉敷学園 保育所等訪問支援事業 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年2月1日 | | ～ 令和7年3月10日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 2 | (回答者数) 2 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年2月1日 | | ～ 令和7年3月10日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 3 | (回答者数) 3 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和7年2月1日 | | ～ 令和7年3月10日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象者数) | 3 | (回答者数) 3 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年3月15日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--------------------------------------|
| 1 | お子さんの特性に合った支援を行うこと。 | お子さんの特性、発達状況を把握した後、所属先に訪問する。声のかけ方や関わり方、環境設定等を支援に取り入れて、所属先の先生方と共有している。 | 継続していき、お子さんの集団適応力を高めていく。 |
| 2 | ご家族、所属先のニーズに沿った支援を行うこと。 | ご家族の考えを聞き取り、どのようなニーズがあるのか把握する。また所属先でのお子さんを取り巻く環境を把握し、どのような困り事があるのか聞き取りながら目標を設定する。 | 継続していき、ご家族の思い、所属先のニーズに沿いながら支援を行っていく。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|-------------------|-------------------------------------|
| 1 | 訪問職員の確保。 | 訪問業務と他業務の兼務が主である。 | 訪問日の調整と、他職員との役割分担を行う。 |
| 2 | 学齢期以降の支援のスキルアップの機会が少ない。 | 幼児期支援の経験を持つ職員が多い。 | 自立支援協議会での意見交換や研修を行う。法人内の事業所へ研修に出向く。 |
| 3 | | | |